

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

加須市立北川辺西小学校

- 1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携（小・中一貫）をとおして具体的にどのような取組をしているか。

本校では、学校教育目標「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」、『ふるさとを愛する、心豊かでたくましい児童の育成』の具現化を目指して、生徒指導の本年度の目標を設定した。

①笑顔で声を掛け合う「あいさつあふれる学校」

②廊下歩行を徹底した「静かで落ち着いた校舎内」

③きまりを守り、心から満足できる学校生活を送る「誇りに思える学校」

そして、指導の重点として、

○基本的生活習慣ができる児童（当たり前のことを当たり前でできる児童）を育てる。

○他者との関わり（豊かな交流活動）を大切にし、共感的人間関係を育てる。

○一人一人の児童を大切に（共感的肯定的児童理解）、自己存在感を味わわせる。

（認め、励まし、伸ばす）

○考える機会や場、時間を大切に、自己決定の場を持たせる。（学級経営の充実）

の4つを掲げ、家庭や地域、関係諸機関との連携を図りながら、積極的な生徒指導の推進に取り組んでいる。以下、本校の課題と実践について述べる。

1 課題

- (1) 対人関係能力が十分身につけていないため、ささいなことをきっかけとした友人間トラブルが見られる。
- (2) 不登校傾向にある児童がおり、担任を中心に全職員で登校へ向けた支援のあり方を模索している。
- (3) 「小1プロブレム」への対応として保・幼・小の交流は、計画的に行われているが、「中1ギャップ」解消のための小・中連携がまだ十分図れていない。

2 実践

- (1) 他者との関わりを大切に共感的人間関係を育てると共に、自己決定の場を確保し、自己存在感を味わわせる。

①学級経営の充実

- ・生徒指導が機能する学級経営

自己決定の場を与える…考える機会や場、時間を十分確保し、意欲化を図る。

自己存在感を味わわせる・一人一人に役割を与える…認め、励まし、伸ばす指導の徹底。

（肯定的な児童理解）

相互評価カードやなかよしポスト、誉め言葉のシャワー等によるよさの発見等。

校内行事において、目標に向かって共に努力したり他者との関わったりすることを大切にする。

- ・学校生活の基本となる学習指導の充実

学習の約束を決め、落ち着いて学び合う場の設定。

わかる授業、楽しい授業の創造。

TTや少人数指導による個に応じた指導と基礎・基本の定着。

自主学習の奨励と称賛。

- ・日常の観察と情報交換による児童理解と問題の早期発見、早期対応

健康観察、欠席状況の把握（欠席した児童への電話連絡、家庭訪問）

児童との会話、日記や作文等を通しての問題の発見

- ・なかよしアンケートの実施

学校生活に対する意識調査（学期に1回）（人権教育部と連携）

日常観察だけではつかみきれない児童の意識を把握し、指導に生かす。

- ・学習、生活を全職員で見届ける学年会の充実
- ・児童を理解する力の向上を図る校内研修
生徒指導研究協議会報告会や事例研修、体罰禁止やいじめ防止に対する教職員の意識向上を図る研修の実施。

②たてわりグループでの活動

- ・1組グループ、2組グループを各12班に分け、たてわり班で活動する。
たてわり遊び、全校徒歩遠足、集会活動、たてわり給食、クリーン作戦（通学班）

③諸問題への対応

- ・校長、教頭、生徒指導主任等を中心に、諸問題にすぐに対応する。職員会議で報告し、全校体制で問題に対処する。
- ・不登校児童に対しては、担任一人で抱え込むことなく学校全体として組織的に対応する。また、保護者と連絡を取りながら個々の状況を見極め、それぞれに応じた支援を行う。

（２）児童理解を深め、行動連携を図る家庭・地域ネットワークを構築する。

①生徒指導推進委員会

配慮すべき児童の様子を全職員で把握し、共通理解した上で指導する体制づくりをする。

②連絡帳・電話連絡・家庭訪問・学年だより等の活用

- ・家庭からの連絡に対しては、誠意・正対・スピードを心がけて指導する。

③教育相談体制の充実

- ・必要に応じて中学校配置のさわやか相談員やスクールカウンセラーとの連携を図る。

④地域人材の活用＝夏季休業日のサマースクールの実施

- ・地域からの学習ボランティア、中学校からのアシスタントティチャーを招く。

⑤学校公開

- ・学習参観、1日学級公開、各種展覧会、西っ子フェスティバル等、さまざまな分野で積極的に公開する。

⑥保・幼・小の連携

- ・来年度のことを考え、年長児と5年生の交流を定期的に行う。（プール、給食、遊び等）その他に、1年生や2年生と交流する機会を設け、小学校入学への不安を取り除くようにする。
- ・保・幼・小の教員が集まり、互いの保育や指導についての理解を深めたり、幼児・児童の情報交換を行ったりする。

⑦小・中の連携

- ・中学校の学習への不安を解消するために、中学校の教師が小学校を訪問し、6年生に対して出前授業を行う。
- ・小・中連絡会を開催し、中学校へ入学する児童について情報交換をし、指導に役立てる。

◎今後の課題

○ 児童・生徒の交換交流会を増やす。

例) 中学校の部活動の部員が小学校を訪問し、児童に指導助言を行ったり、演技を見せたりする。

児童が中学校を訪問し、部活動を体験する。

長期休業中に中学校1日体験入学を行う。

中学校の行事に6年生が参加する。（文化祭・体育祭・合唱コンクール等）

○ 教職員の連携を深める。

例) お互いの教員が、授業参観をし、児童や生徒の様子を把握すると共に、それぞれの指導方法や指導内容についての理解を深める。

○ 小・中で指導の共通化を図る

例) 小・中で話し合い、生徒指導の重点項目を共通化し、発達段階に応じた指導を積み重ね、指導の一貫性を図る。